専大スポーツ
No. 389
大会結果、予定は体育会ホームページ（専大ホームページ「スポーツ」からアクセス）でご確認ください
専大スポーツ編集部 web（http://sensupo.com/）でも大会結果を配信しています

悲願の男女総合優勝

全日本学生ローラースケート選手権

スピードとホッケーの2部門で大学総合王者を決める全日本学生ローラースケート選手権が10月5～7日、長野市・千曲川リバーフロントスポーツガーデンで開かれた。男子は両部門を制し、貫禄の総合2連覇。女子はスピード部門優勝、ホッケー部門準優勝に輝き、こちらも総合優勝を達成。昨年度は果たすことができなかった悲願のアベック優勝を成し遂げた。

多くのトロフィーや表彰状を手にし、笑顔の部員たち

男子は2連覇

男子ホッケー部門は、準決勝でアジア選抜選手を擁する強豪・國學院大に2―0で勝利。決勝の相手はライバルの立教大。序盤に1点リードした専大は後半残り5分で同点に追いつかれるも、同1分半に泉京助主将（経営4・元石川高）が値千金の勝ち越し点を奪い、優勝へ導いた。

最優秀選手賞に選ばれた泉主将は「相手に土壇場で追いつかれた時は焦ったが、自分の得点で後輩たちにインカレ優勝という最高の恩返しができたと試合を振り返った。

男子スピード部門は300㍍で山本天平（文3・船橋芝山高）が1位。松原光（商4・岐阜聖徳学園高）・泉主将・石井佑和（経営4・茨城高）・山本が出場した1600㍍リレーも制した。

女子ホッケー部門は準決勝で東洋大に1―0で競り勝ったが、國學院大との決勝は0―1で敗れた。スピード部門は300㍍で川畑有彩（文4・専大附属高）が、1600㍍リレーで渡邉琴絵（文2・専大附属高）・牧野有花（商2・専大附属高）・川畑・小山絢子（経営3・北海高）が1位となった。（石崎愛奈・法4）

29年ぶり法大に勝利

関東大学ラグビーリーグ戦＝9月16日、八王子市・上柚木公園陸上競技場ほか

3年ぶりに1部リーグで戦う専大は全7試合中2試合を終え、1勝1敗とまずまずの滑り出しを見せた。

昨年度の優勝校・大東大との開幕戦（16日）は21―53で敗れたものの、後半のラストプレーでトライを決めるなど、今季に期待を抱かせる内容だった。

続く2戦目（24日）は法大と対戦。前半6分、FB檜山成希（経営2・國學院大栃木高）がトライを決め先制に成功したが、その後法大に3連続トライを許すなど、14―19で前半を折り返した。後半に入ると、ゲームは白熱した展開に。後半35分、SH片岡領（経営3・昌平高）が左サイドを抜き去りトライを決め、同点に追いついた。ノーサイド寸前、それまで劣勢だったスクラムで押し切りボールを奪うと、WTB夏井勇大（商3・秋田中央高）が相手のタックルを振り切り、逆転トライ。38―33で勝利。村田亙監督が現役部員だった1989年度以来、29年ぶりの法大戦白星となった。

逆転トライに向けて相手のタックルを振り切る夏井

村田監督は「初戦で昨年度王者と戦い、フィジカルやアタックが通用したことが自信になり、法大戦につながった。攻守共に奮闘し、3年前とは違うということを存分に見せられた」と確かな自信と成長を語った。（髙田康平・経営2）

1部復帰へ首位に浮上

東都大学野球秋季リーグ戦（2部）第5週＝10月2～3日、神奈川県・大和スタジアム

日大との開幕カードを落としたものの、続く拓大戦では勝ち点を挙げ、調子を上げつつあるなかで迎えた第5週の青学大戦。1戦目は山田克志（商4・東海大付甲府高）の先頭打者本塁打などで挙げた得点を守り切り、3―2で勝利。2戦目はチームとして徹底している〝つなぐ野球〟を展開。大庭樹也（経済2・明豊高）の2試合連続となる適時打などで5―1で快勝した。これでリーグ戦4連勝となり、首位に急浮上。悲願の1部復帰が現実味を帯びてきた。

福永裕基主将（文4・天理高）は「粘り強く戦い、連勝することができた。打てるボールを逃さず、際どいボールはしっかりと見極められたのが大きかった。投手陣も落ち着いていたと語った。

なかでも左腕のリリーフエース・角谷幸輝（商3・専大松戸高）はここまで5試合に登板し防御率0・60と抜群の安定感を発揮。青学大戦も力のある直球とキレのあるスライダーでスコアボードに0を並べた。

秋季リーグ戦もいよいよ大詰め。し烈な優勝争いが繰り広げられるなか、一歩リードした専大がこのまま2部優勝、そして1部復帰なるか。大いに期待が持てる。（八代哲・経済2）

男子2位　女子3位

田添、安藤に特別賞

秋季関東学生卓球リーグ戦＝9月14～21日、埼玉県・所沢市民体育館ほか

男子は郡山北斗主将（経営4・関西高）・及川瑞基（商3・青森山田高）ペアが最優秀ペア賞、及川、田添響（商4・希望が丘高）が優秀選手賞を獲得するなど、各選手が奮闘した。しかし、優勝を懸けた明大との全勝対決に敗れ、6勝1敗で2位。あと一歩のところで優勝を逃した。

7月の全日本大学総合卓球選手権（インカレ）を制した男子はその強さを遺憾なく発揮し6連勝で最終日を迎えた。明大戦は1番手の及川、3番手の田添が勝利し、序盤は専大が2―1とリードする展開。しかし、続くダブルスで郡山・及川ペアが敗れ、流れが一気に明大に傾くと、小林准也（文1・松徳学院高）、三部航平（商3・青森山田高）が連敗した。

郡山主将は「個々が出せる力を出し切ったと思うが、明大の方が一枚上手だった」と悔しがった。

女子は第6戦で春季リーグ戦とインカレを制した早大に勝利。最終戦の日大戦に勝利すれば優勝となったが、激闘の末、3―4で敗れ3位で大会を終えた。

安藤みなみ主将（商4・慶誠高）は「残念な結果に終わったが、来年につながる良い試合ができた」と収穫を口にした。

4年間で1部通算32勝を挙げた男子の田添、同じく44勝を挙げた女子の安藤が、特別賞を受賞した。（髙橋玲央・法3）

バックハンドで攻め込む田添＝明大戦。撮影・石崎

坂井が優勝

関東学生フェンシング新人戦＝9月12日、世田谷区・駒沢オリンピック公園総合運動場体育館

女子フルーレで坂井真子（経営1・東亜学園高）＝写真＝が優勝、大学での初タイトルを獲得した。

「どの試合も大差で勝つことができたので、結果だけを見れば満足のいく大会だったが、試合内容は決して納得のいくものではなかった」と振り返った。

専大に入学して半年が経過。「大学の試合はレベルが高く、1試合での体力の消費が激しい。このレベルで勝ち残っていくためには体力面に加え、技術面や試合の組み立て方といった部分も伸ばしていかなければいけない」と高校との違いも実感しているという。また、「菊池小巻さん（商4・翔陽高）と同じ舞台で戦えるような強い選手になりたい」と今後の抱負を述べた。（久保信裕・文3＝写真も）

国際大会出場選手

◇水泳部（水球）
青山直輝（経済1・秀明英光高）アジアジュニア選手権水球競技大会（10月24～29日、ウズベキスタン・タシケント）
※日本代表

◇フェンシング部
坂井真子（経営1・東亜学園高）ワールドカップイギリス大会（11月3日、ロンドン）
※フルーレ日本代表

◇ラグビー部
野口宣裕（法4・早稲田摂陵高）アジアラグビーセブンズシリーズアジアシリーズ韓国大会（9月27日～10月1日、仁川）、スリランカ大会（10月10～15日、コロンボ）
※男子7人制日本代表